

診療科	泌尿器科
学会認定	日本泌尿器科学会専門医教育施設
特長	<p>当科では、尿路・男性生殖などの悪性腫瘍、尿路結石症、前立腺肥大症、尿路感染症など一般的な泌尿器科疾患の診療に加え、東京女子医科大学腎臓病総合医療センターからの医員派遣ということもあり、腎臓内科・透析室との連携をはかり腎不全患者の診療、ブラッドアクセスの造設・再建、さらに腎移植も行っている。（移植指定病院）</p> <p>大学病院と同じレベルの診療が、自宅近くの地域の病院で、きめ細やかなケアとともに提供できることを心がけている。泌尿器科患者の多くは高齢者であり、手術などの治療さえ行えば治癒するわけではなく、リハビリ・在宅介護を含めて快適な生活が送れるよう支援している。</p> <p>02年度から、ストルツ社製の最新機種を備え、体外衝撃波（ESWL）による結石治療ができるようになり、他院からの紹介も増え、破碎成績は良好である。</p>
概要	<p>1、日本泌尿器科学会専門医制度に準じ、専門医取得のための初期研修をおこなう。（平成18年4月より泌尿器科専門医認定までのタイムスケジュールが改訂され、泌尿器科専門研修期間を4年間とする。）</p> <p>2、一般総合病院の特性を生かし、泌尿器科領域のみならずより広い視野に立った医療が行える医師の育成を目指す。</p> <p>3、論文、医学雑誌を学び、学会参加を通して、医療を科学的に理解し研究できる態度や能力を養う。</p> <p>4、医療の本質を熟知し患者の立場を配慮した診療のできる医師を目指す。</p> <p>教育および評価方法： 技術習得に関しては、各卒業年次に応じて習得プログラムを作成して教育を行い、年次ごとに評価し各自の努力目標を設定する。また、一般救急外来を通じて幅広い救急疾患を扱えるように指導し、当科での研修が困難である治療研修に関しては、他施設（大学等）、他科の研修を考慮する。 具体的な教育項目に関しては日本泌尿器科学会教育委員会の研修目標に準拠することとする。</p>
主な症例 (件数) 2008年実績	<p>総手術件数は、428件 悪性腫瘍関連 63例、TUR-BT 58例、TUR-P 32例、ESWL 154例、 ブラッドアクセス 59例、腹腔鏡手術 4例、腎移植 2例</p>
研修指導医数	<p>日本泌尿器科学会専門医 3名 日本泌尿器科学会指導医 2名</p>